

地域産業クラスターの進捗状況について

個々のクラスタープロジェクトについて、「プロジェクトチーム(県、市町村、関係団体等で構成)」を設置し、クラスタープランの策定やその実行をサポート。

併せて、「地域産業クラスター化推進チーム(県の関係部局、産業振興センター等で構成)」において、各プロジェクトの課題に応じて、川上(産地のニーズ)・川下(消費者・加工事業者等のニーズ)の情報を収集しマッチングさせるなどのサポートを実施。

プロジェクト名	プロジェクトチームの設置 (□:設置済)	クラスタープランの策定 (□:策定中、◇:策定済)	進捗状況(H28.9月時点) (△:検討段階、○:事業着手段階、◎:事業化段階)			取り組み内容(㊦:上半期の進捗、㊧:下半期の取り組み予定)
			1次 (生産の拡大)	2次 (加工の展開)	3次 (観光、飲食、物販等の展開)	
①四万十次世代モデルプロジェクト	□	□ (3月予定)	◎	△	△	㊦:栽培施設や集出荷施設を備えた次世代施設園芸団地(4.3ha)が竣工(5月)、トマトの生産を本格稼働(7月)、収穫開始(9月) 育苗・苗の供給施設(50a)が完成(H28.2)し、生産本格開始(4月) ㊧:加工品づくり等の方向性を検討
②日高村トマト生産拡大プロジェクト	□	□ (12月予定)	○	△	○	㊦:次世代型ハウス等の整備や就農希望者への研修等を行うJA出資型法人を設立(9月) 日高村オムライス街道スタンプラリー第3弾スタート(6月、11店舗参加) ㊧:JA出資型法人のハウス、参入企業のハウス整備計画の策定。加工事業者の加工施設整備の具体的検討に着手
③南国市還元野菜プロジェクト	□	□ (3月予定)	○	△	△	㊦:次世代型ハウス(73a)の整備に着工(6月)<竣工11月 営農開始12月予定> ㊧:還元野菜の販路拡大を検討
④日本一のニラ産地拡大プロジェクト	□	□ (2月予定)	○	△	△	㊦:規模拡大志向農家を中心に次世代型ハウス整備(56a)・そぐり機(27台)の導入に向けた補助事業への申請 ㊧:研修用ハウスの整備及びミニそぐりセンターの整備の検討、加工事業者へのビジネスプランの提案
⑤日本一のナス産地拡大プロジェクト	□	□ (3月予定)	○	△	△	㊦:次世代型ハウス(1ha)の用地確保・整備(～9月)<着工10月、竣工3月、営農開始H29年8月予定> ㊧:地域の飲食店や加工グループ等との協議
⑥林業・木材産業クラスタープロジェクト	— ※産業成長戦略の取り組みとして推進		◎	◎	—	㊦:CLTラミナ工場の稼働(4月)、集成材工場(木材高次加工施設)の整備に着手<年内完成予定> 既存製材所の製材設備の更新を支援(2事業体)、コンテナ苗生産施設の整備に着工(9月) ㊧:CLTパネル工場の誘致に向けた原木の増産や非住宅木造建築の需要拡大、コンテナ苗の需要拡大に向けた森林所有者へのPR
⑦幡多地域広域水産業プロジェクト	□		○	△	△	㊦:クロマグロ人工種苗生産試験を実施中、土佐清水メジカプロジェクト推進協議会設置(5月)、カンパチ人工種苗の有償配布 ㊧:増養殖の振興のための試験研究機関の設置(古満目)、中間育成漁場の開拓、残さい加工施設整備の方向性を確認
⑧水産業中央地域広域展開プロジェクト			△	△	△	㊦:新たに養殖マダイの前処理加工がスタート、アサリ資源回復に向けた被せ網試験の実施 ㊧:加工事業者の施設の高度化(HACCP対応等)をサポート、被せ網の規模拡大に向けた国事業の導入検討、釣筏を核とした浦ノ内湾の遊漁振興活動の実施
⑨JAグループ・流通事業者による加工・業務用野菜の産地化プロジェクト	□	□	○	△	△	㊦:加工・業務用野菜の産地化に向けて試験栽培品目(4品目)を選定し、試験栽培を開始(9月) ㊧:試験販売の開始、試験栽培実施地域の拡大、加工施設の誘致促進
⑩奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター	□		△	◎	△	㊦:水産加工施設及び農水産加工施設が稼働(5月)、奈半利町の地産外商等の拠点となる集落活動センター「なはりの郷」が事業開始(7月) ㊧:ふるさと納税制度を活用した地産外商の強化
⑪竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出	□		◎	◎	—	㊦:竹の集材・一次加工施設が稼働(6月)、竹の供給体制を構築、おが粉の活用先を検討 ㊧:竹の供給地域の拡大、おが粉の新たな販路開拓
⑫嶺北畜産クラスターによる地域の活性化	□	□ (10月予定)	◎	△	△	㊦:大川黒牛肥育牛舎完成(4月)、土佐はちきん地鶏育雛舎完成(6月) ㊧:土佐あかうし生産基地に堆肥舎を整備、土佐はちきん地鶏の食鳥処理施設を整備
⑬嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化	□		◎	○	△	㊦:ストックヤード造成工事の着手、集落活動センター「西峯」でスギ苗木生産を開始(4月)、木工製品の加工機の増設(6月) ㊧:原木の安定供給(必要量の確保、ストックヤード造成工事)、木工製品製造施設の整備、新規就業者育成に向けた研修プログラム等の実施
⑭仁淀川町の事業者を中心としたカット野菜事業等の展開による雇用の確保と販売拡大	□	□ (12月予定)	△	△	△	㊦:カット野菜事業の規模拡大に向けたスキームの検討 ㊧:カット野菜事業の加工施設の整備計画の検討
⑮佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター			△	◎	△	㊦:自伐型林業の担い手となる地域おこし協力隊員5人を雇用、ものづくり担当の地域おこし協力隊4人を雇用しものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」を開所(4月) ㊧:法人設立準備
⑯四万十ポークブランド推進プロジェクト	□	□	○	◎	◎	㊦:加工場及び直販所の開業(4月)、飲食店(高知市)の開業(5月) ㊧:新たな豚舎の整備に着工(H29.3月竣工 年間2,500頭増頭)

※①～⑨は産業成長戦略の取り組みを土台としたクラスタープロジェクト、⑩～⑯は、地域アクションプランの取り組みを土台としたクラスタープロジェクト

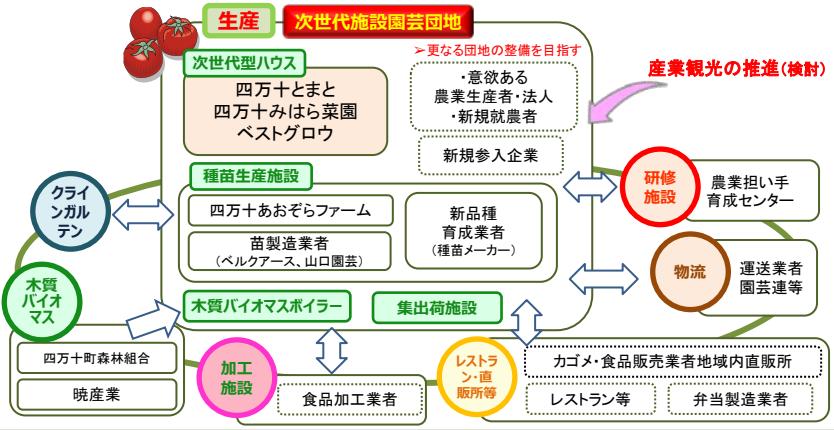
産業成長戦略の取り組みを土台とする地域産業クラスターの形成（展開図）

◆9つのクラスタープロジェクトを推進

（注）図中の点線で囲んでいる部分は想定です。実現に向けて、生産者団体や事業者、市町村等の関係者の皆様と検討を重ねていきます

農① 四万十次世代モデルプロジェクト(四万十町)

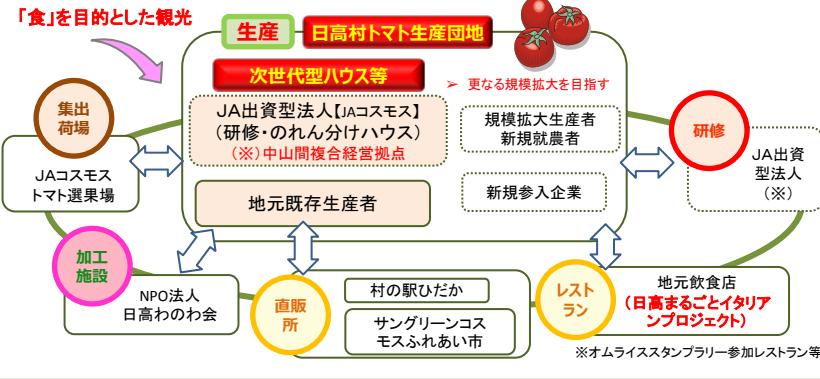
・次世代施設園芸団地でのトマト生産を核として、バイオマス供給施設、種苗供給施設、農産品加工・販売業者、地元レストラン等が連携し、クラスター化を目指す



農② 日高トマト産地拡大プロジェクト(日高村)

・日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点(※)の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスター化を目指す

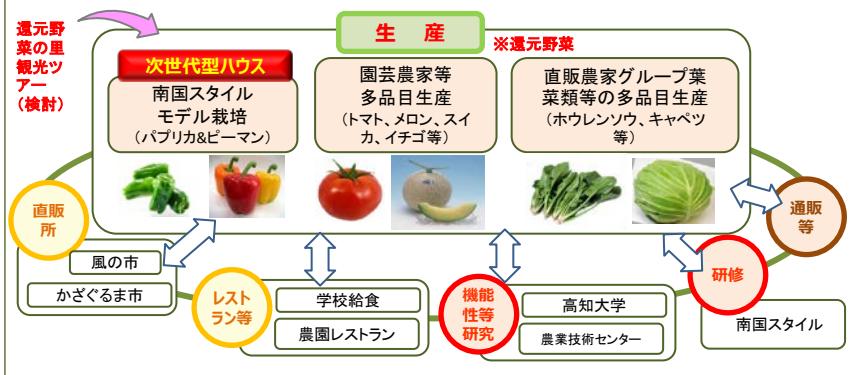
(※) 出資型法人等が、高収益の施設園芸や中山間地域に適した農産物の生産、作業受託による地域営農の維持活動等、複合経営を行い、中山間地域の農業の競争力を高め、支える仕組み



農③ 南国市還元野菜プロジェクト(南国市)

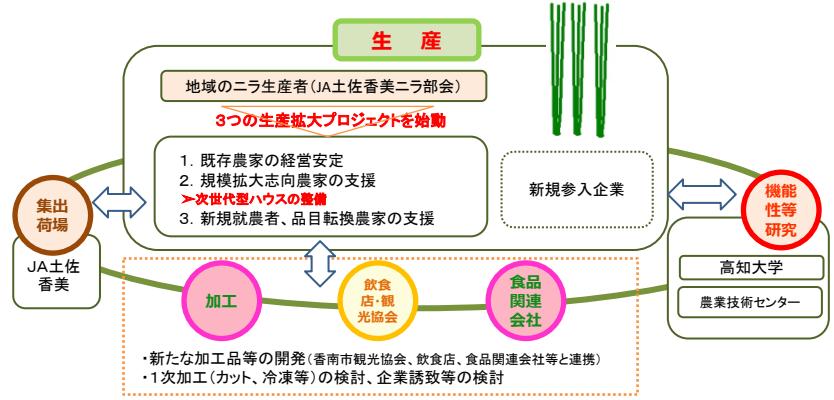
・JA出資型法人「南国スタイル」を中心として、「還元野菜(※)」の生産拡大を図るとともに、関連する直販所や農園レストラン等と連携した還元野菜販売や、メニュー提案等を実施することにより、還元野菜の里づくりを目指す

(※) 電界水素水を使って栽培した野菜のこと。電界水素水は、葉菜類で生育促進効果(収量5~20%UP)あり、さらに葉菜類、果菜類等で抗酸化機能等の機能性成分向上効果を確認



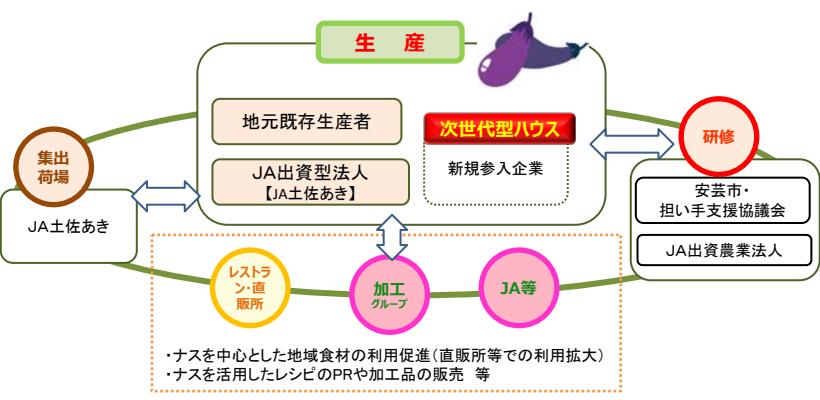
農④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト(香南市・香美市)

・日本一の生産量を誇るJA土佐香美の生産拡大を目指し、3つの生産拡大プロジェクトに取り組むとともに、食品関連会社等の誘致を視野に入れた新たな加工品の開発、地元飲食店でのメニュー開発等により、クラスター化を目指す



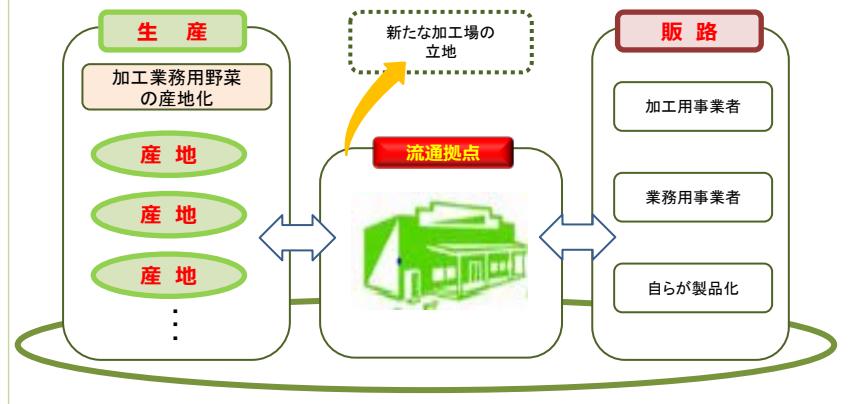
農⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト(安芸市)

・県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を図るとともに、地域の直販所や飲食店等での利用促進、ナス料理や加工・特産品の消費拡大に取り組むことにより、クラスター化を目指す



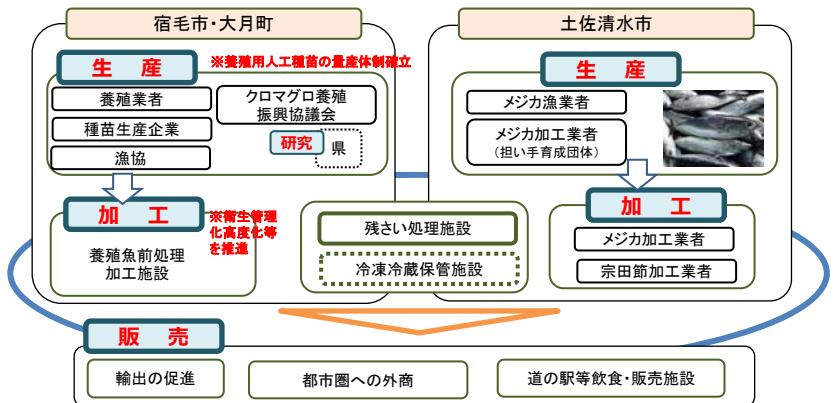
加工業務用野菜の産地化プロジェクト(県下一円)

・需要が増加傾向にある「加工・業務用野菜」の産地化をすすめ、マーケットイン型の商品開発や「生産・加工・流通・販売」までの新たな仕組みの構築に取り組む



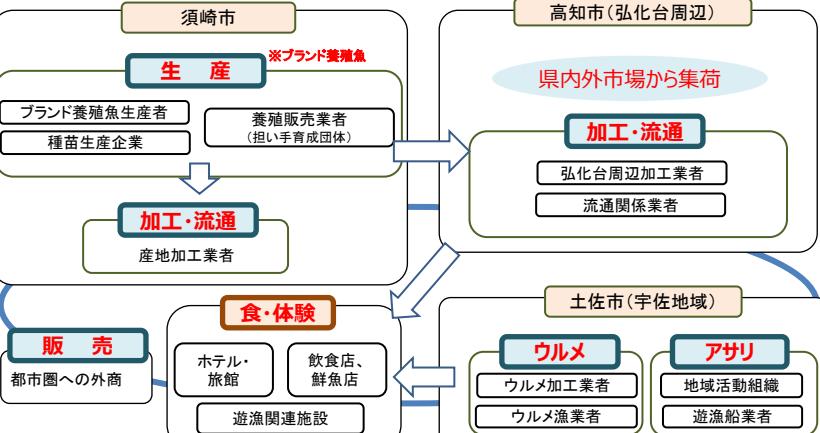
水① 幡多地域広域クラスタープロジェクト

・養殖魚やメジカ加工ビジネスを核とする生産から加工・流通に至る幡多地域での広域産業クラスターの形成を図る



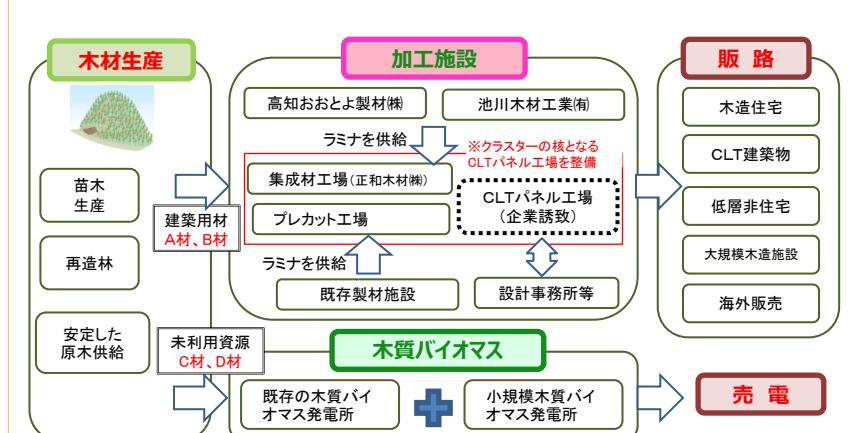
水② 中央地域広域クラスタープロジェクト

・ブランド養殖魚の産地機能と、弘化台周辺の集荷・加工機能を生かしたクラスターの形成を図る



林業・木材産業クラスタープロジェクト(県下一円)

・木材加工を核として、木材生産から販売・再生産までの好循環を生み出す



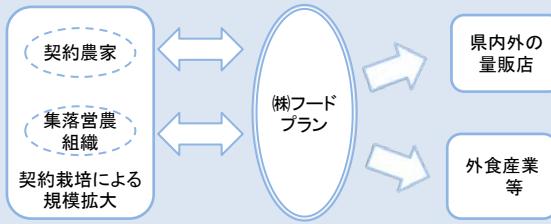
地域アクションプランの取り組みを土台とする地域産業クラスターの形成（展開図）

（注）図中の点線で囲んでいる部分は想定です。実現に向けて、生産者団体や事業者、市町村等の関係者の皆様と検討を重ねていきます

◆7つのクラスタープロジェクトを推進

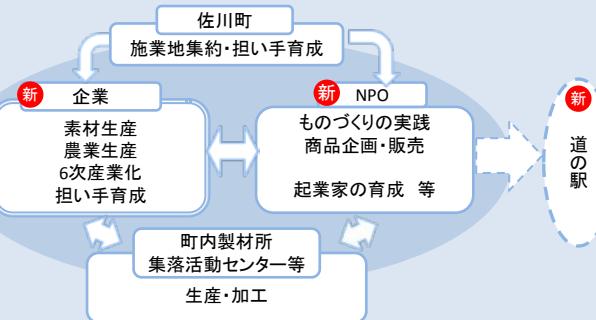
【仁淀川町の㈱フードプランを中心としたカット野菜事業クラスター】

県内産野菜のさらなる活用のため、契約栽培を行う集落営農組織等を仁淀川流域はもとより県内に拡大するとともに、カット野菜加工施設の規模拡大に向けた安定的な原材料の調達を進める。



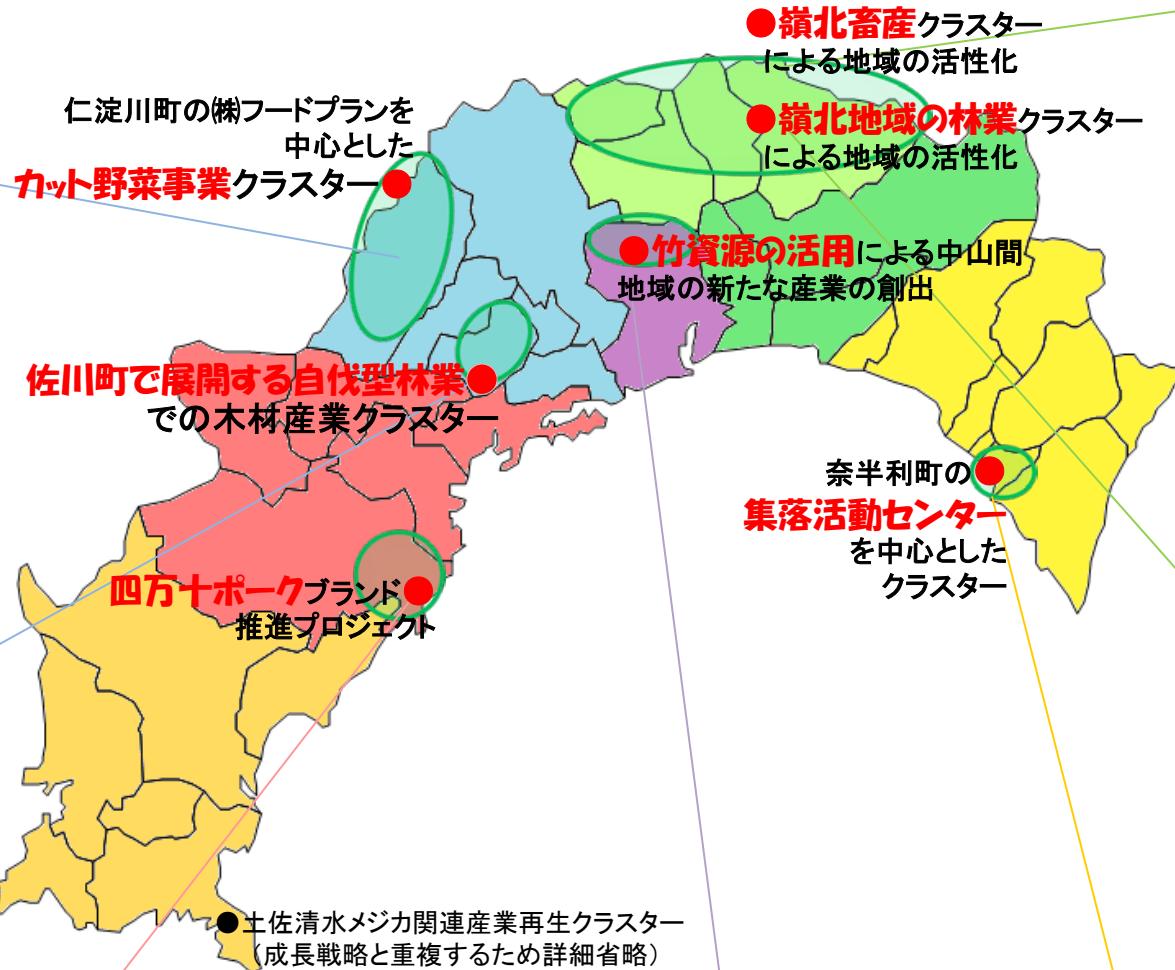
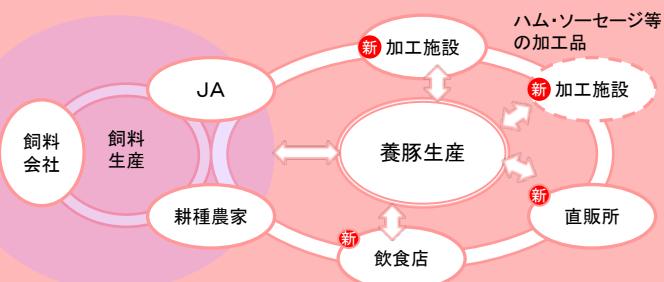
【佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター】

林業の原木等の素材生産や農業生産を行う企業を新たに設立し、自伐型林業の担い手を育成・確保する。また、別途立ち上げるNPO法人において起業家を育成するとともに、町内製材所や集落活動センターと連携してものづくりを実践する。



【四万十ポークブランド推進プロジェクト】

養豚農家の生産基盤の強化を図るとともに、関係機関が連携し安心安全な四万十ポークを消費者に安定供給できる体制を構築し、新たな6次産業化ビジネスの展開とあわせて地域の所得向上につなげる。



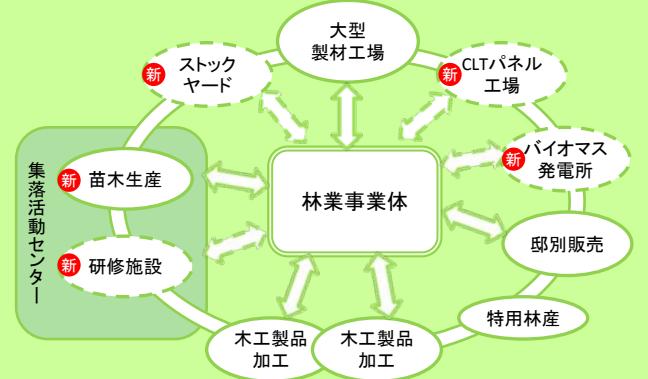
【嶺北畜産クラスターによる地域の活性化】

「土佐あかうし」「大川黒牛」「土佐はちきん地鶏」のさらなる生産拡大と6次産業化による付加価値の向上を図る。また、さめうら湖や山岳資源を活用したスポーツツーリズムにより観光振興・交流人口の拡大を図りながら、レストラン事業の展開も検討する。



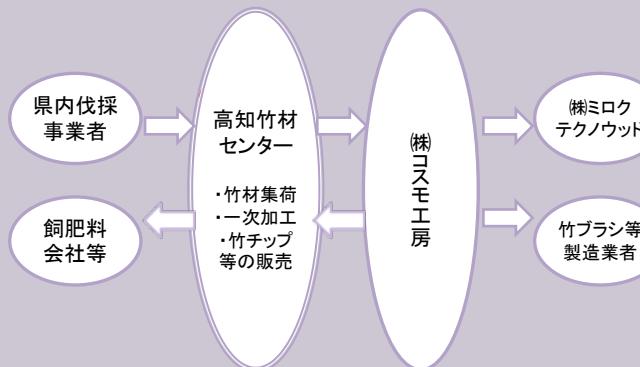
【嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化】

嶺北地域の豊富な森林資源を余すところなく活用し、地域経済の活性化につなげる。



【竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出】

県産竹材を活用した製品加工の拡大とともに、竹材の集荷や一次加工、竹チップの販売など竹資源を活用した新たな事業展開を図る。



【奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター】

新設する集落活動センターを拠点として、奈半利ブランドの確立と地域の所得向上につなげる。

